

# 青雲

13号 2011.3

発行人 / (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

# 「青雲」

—— 題 字 ——

前島根県知事 澄田信義氏



えにし  
『縁』

出雲の神様といえば大国主大神、“縁結びの神様”とありますがこの縁結びは、単に男女の仲を結ぶことだけでなく、人間が立派に成長するように、社会が明るく楽しいものであるように、すべてのものが幸福であるようにと、お互いの生成の為つながりが結ばれる縁もあるのではないかと思います。

我々が縁を大切に一致団結し、縁＝絆の和を広げて行きながら青年部会らしい行動と自らの力で未来を切り開いて行こうではありませんか!!

優れた創造力と逞しき意志、勇気と燃える情熱を持って!!

(株)島根県建設業協会出雲支部青年部会 総務広報委員会

# 青雲

13号 2011

contents

- 巻頭言／  
 (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会長 山口 弥 …………… ①②
- 平成22年度卒業生より一言 …………… ③  
 (有)浅津工務店 浅津 智雄
- 平成22年度新入会員紹介 …………… ④  
 (株)フクダ 船木 博之
- 平成22年度事業報告  
 ・経営研究技術研修会報告 …………… ⑤～⑧  
 ～新たなPPPインフラ整備～研修会を終えて  
 経営研究委員会 委員長 平井 貴司
- ・親睦事業結果報告 …………… ⑨～⑩  
 ～第3回親善野球交流試合～  
 (株)板倉重機 持田 充  
 出雲県土整備事務所 堀田 陽仁
- ・地域貢献事業報告 …………… ⑪～⑫  
 ふるさとまるごとクリーンアップ作戦  
 ～2010海岸清掃～  
 (株)もりやま 森山 竜人
- 僕の趣味 出雲土建(株) 小村 伸一 …………… ⑬
- 糟糠(そうこう)の妻 事務局 手銭 裕子 …………… ⑭
- 編集後記〈総務広報委員長／御船 善弘〉 …………… ⑮

# 「初志貫徹」

(社) 島根県建設業協会出雲支部青年部会  
部会長 山口 弥



昨年5月の定時総会において出雲支部青年部会会長を拝命してから、早いもので半年が経過しました。

我々業界を取り巻く環境は相変わらず一向に好転の兆しが見えません。それどころか2009年8月の某党への政権交代以降、その状況は悪化の一途を辿っているように思えてならない。

国土交通省による地方建設業再生策を検討する「建設産業戦略会議」の新設や、政治家による超党派での「公共調達研究会準備会」の立ち上げなど、環境改善へ向けての動きが少しずつ見えてきた事は期待できるが、実現までにはまだ少々時間がかかりそうだ。

あれこれ不満や要望を言い出せばキリがない上、言えば言うほど憂鬱になってくるのでこれ位にしておきたい。

そんな中、我々青年部会の存在意義とは何かを、もう一度自分なりに整理してみた。

1997年9月の発足以来、多くの先輩諸兄の強いリーダーシップのもと、「会員相互の親睦」「地域貢献活動」「行政への提言や意見交換」「各種勉強会の開催」「県内・県外その他青年部会との交流」等々、その時代に沿った様々な事業を展開してきた。どれも意義ある大切な事業であり、今後も継続が必要なものばかりなのだが、その中でもその重要性を再度認識してもらいたいと思ったのが「会員相互の親睦」である。

私は幸運にも設立時から在席させていただいた縁で、本当に沢山の人たちとの出会いがあった。当初何も分からぬ青二才の私は、正直小難しい業界の事は理解する事も出来ず、また、

理解する気すらなく、ただただ先輩の後に引っ付いて飲んで騒ぐだけの青年部会だったように思う。振り返ると周りの同世代の会員達も同様であったように思う。

「あの頃は時代が良かった。」

そう言われれば元も子もないのだが、今になって思えばそれも当時の先輩諸



兄らの計算されたものだったと感じる場面が少なくない。

それを痛切に感じたのが2005年3月の「市町村合併」であった。親会はあったとしても、常に参加しているのは各地区選出の役員などの限られた会員で占められ、会員全員を対象とした事業でも地域によっては参加者がほとんどいない事も少なくなかったように思う。ましてや若い後継者や技術者、営業マンとの地域を超えた接点など、この青年部会が無かったら皆無に等しかっただろう。

新市誕生に伴う行政制度の変更や、一住民としての新市の一体感などは時間がある程度解決してくれた。しかし「人と人とのスムーズな信頼関係の構築」は時間だけでは到底解決できるものではなかった。合併直後「はじめまして」で名刺交換を始めるのと、「やあ！元気かい！今後ともヨロシク」で始まるのとは雲泥の差である。実際、各地域の情報収集や閑散期、繁忙期における仕事のやり取りなど、合併のスケールメリットを逸早く発揮できたのも青年部会に起因するものが間違いなく大きい。

「青年部会が無かったら…」今考えれば少々背筋が寒くなる思いだ。

我々はあらためてその先見の目をもって、部会創設に尽力された先輩諸兄に感謝と敬意を表さねばならない。そして部会設立の真の意義を再度胸に刻み込ませなければならない。

本年10月、更に大きくなった出雲市が産声を上げようとしている。近い将来、新たな枠組みの中で、協会各社が企業存続と繁栄に向けた企業活動がスタートする。益々激化するであろう受注競争の中、時には企業間の衝突や軋轢も生まれるかもしれない。

しかし、少なくとも青年部会で同じ釜の飯を食い、共に浴びるほど酒を酌み交わした者達とは、本音で語り合い、協力し合い、互いに切磋琢磨しながら努力すれば、必ずや双方にとって有益な道が開かれるものと私は信じて疑わない。

そのためには何が必要か？

まず自らが行動しなければ何も始まらない。

とりあえず飲む事だけでもいいじゃないか。

とりあえず一緒に遊ぶだけでもいいじゃないか。

自分から積極的に参加し、損得勘定抜きにして、多くの友と杯を交えながら、膝付き合わせ、互いに胸襟を開き、時に笑い、語り、怒り、泣き、そしてまた笑う。

設立当初の初心に戻ってそんな機会を思う存分提供する事を、今まで以上に大事にしたいと思う。

「人は一人では生きていけない」よくこんな言葉を耳にするが、我々中小企業も同じ。

「企業は一社では生きていけない」のだから。



## 卒業にあたり

(有)浅津工務店 浅津 智雄



昨年度青年部会に入会させていただき、短い間でしたが2年間皆さんと一緒に活動出来たことを楽しく誇りに思います。また次世代を担う若い方々や、青年部会に入らないと出会えなかった諸先輩の方々と交流できたことは大変良い経験だったと思います。

特に真夏に行われた「ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 2010海岸清掃」は今まで行われてきた道路清掃に代わって今年度初めて行われた事業で今岡委員長をはじめ地域貢献委員会のメンバーや三原副部長、事務局の皆さんと何度も協議し、現地視察を行い実施しました。真夏の作業でしたが気温は思ったよりも高くなかったので心配していた熱中症などになる人もいませんでした。現地では、流木や網など大きなゴミや一人ではとれないゴミが多く範囲も広大でこれを全部時間内に片づけるのかと思うとため息が出ました。しかし、大勢の力で作業も順調に進み、昼には海岸が見違えるほどきれいになっていました。

このように個々の力では到底できないことを青年部会の若い力と団結で成しえたことは貴重な体験でした。今後ともこのパワーで出雲市を盛り上げていって欲しいものです。残念ながら今年度で青年部会は卒業ですがこの会での経験を生かし頑張っていきたいと思います。

最後になりましたがいろいろとお世話になった会員の皆様方、そして事務局の皆様本当にありがとうございました。青年部会のより一層の発展をお祈り申し上げます。



## 新入会員紹介

## 青年部会に入会して



㈱フクダ 船木博之

(S45.12/25生)

平成8年度入社以来、現場管理・営業合わせ14年間建設業に携わってきました。近年、入札制度の改革や市町村合併、公共工事の削減、企業のコンプライアンス等、目まぐるしい変化の中、どうすればよいのか分からないことばかりで悪戦苦闘しながら毎日仕事をしております。

その中で、今年度より青年部会に入会させていただき、早いもので半年以上の月日が経ちました。その間、ふるさとまるごとクリーンアップ作戦やPPPの講習会等に参加させていただき、改めて建設業は地域にとって必要な存在であり新しい発展に満ちた業界であることを認識いたしました。

しかしながら、一昨年 of 政権交代をはじめ、不景気や国、地方公共団体の財政赤字問題等、建設業界を取り巻く環境は非常に厳しい状態が続いております。そのような中で、青年部会の活動や研修会、また様々な出会い・交流を通じて考え方や行動について学び、自分の出来ること、すべきことを見つけていきたいと思っております。

また、青年部会で会員交流委員会に所属させていただき、(自称「出雲地区一番の下戸」の私には務まるか心配ですが…) いろいろな方々との有意義な交流が行えるよう知恵を絞っていこうと思っております。

至らぬ点もあろうと思っておりますが、微力ながら少しでも貢献できるよう頑張りますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。



● 経営研究技術研修会報告 ●

# 「民間資金を積極的に活用した社会資本整備の先に」

## ～新たなPPPインフラ整備～研修会

- ・開催日時 2010年10月25日 午後3時30分～午後5時
- ・講師 国土交通省政務三役政策審議室 政策官 小笠原 憲一 氏
- ・研修内容 「PPP/PFIの現状と課題」

1. 建設業を巡る現況と今後の方向性
2. PPP/PFIの推進について
3. その他

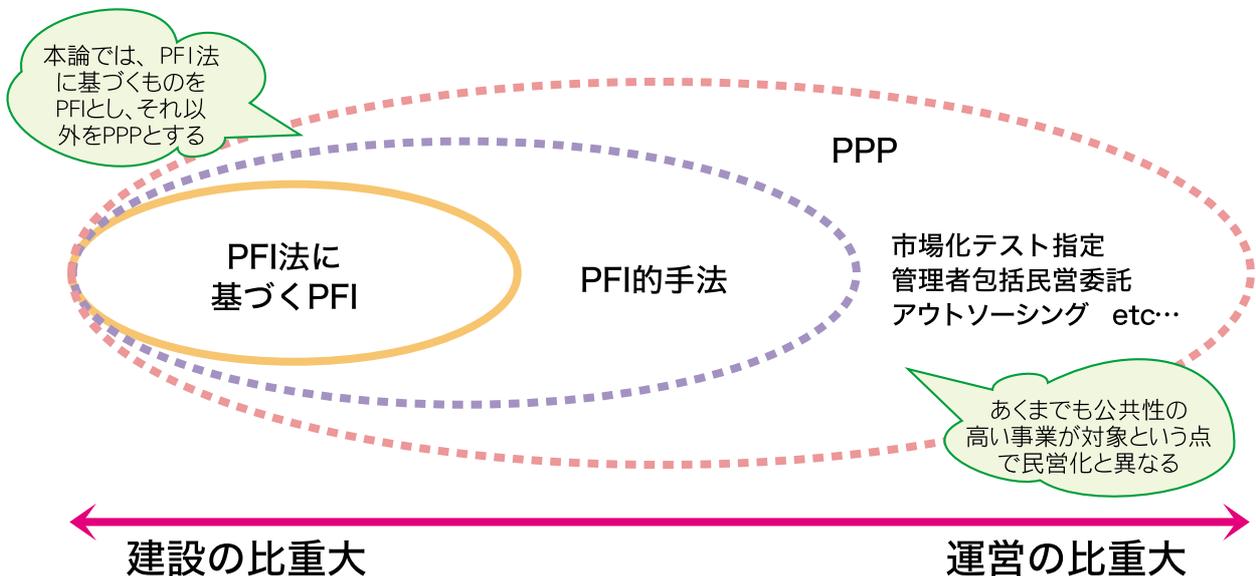
### 研修会を行った経緯

国は、今後少子高齢化、人口減少で税収や社会保障関係費なども見込めなくなる為、国土交通省成長戦略（平成22年5月17日策定）の中で、民間資金の活用を拡大し、真に必要な社会資本の新規投資及び維持管理を着実に進めて行く為、「新たなPPP/PFIの活用を推進する」と発表した。それに伴い、「新たなPPP/PFI事業」提案募集について説明会が全国各地で行われ、我々青年部会としては今後事業規模が拡大するだろうこの制度をきちんと理解し、いち早く対応する為に県協会青年部会と共催で研修会を行った。

### 「PPPとは」

PPP（パブリックプライベートパートナーシップ）は、文字通り、官と民がパートナーを組んで事業を行うという新しい官民協力の形態であり、次第に地方自治体で採用が広がる動きを見せている。PPPはたとえば水道やガス、交通など従来地方自治体が公営で行ってきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま設備投資や運営を民間事業者に任せる民間委託などを含む手法を指している。PFI（プライベートファイナンスイニシアチブ）との違いはPFIは国や地方自治体が基本的な事業計画をつくり、資金やノウハウを提供する民間事業者を入札などで募る方法を指しているのに対してPPPは、例えば事業の企画段階から民間事業者が参加するなど、より幅広い範囲を民間に任せる手法であること。

### 明確な定義はないものの、一般的なPPPとPFIの関係は以下の通り



● 経営研究技術研修会報告 ●

## 建設産業を取り巻く厳しい環境

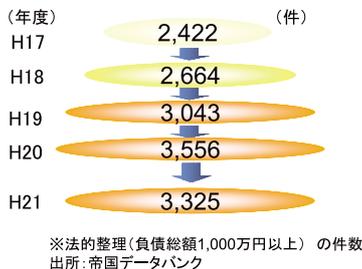
### 建設業を取り巻く状況

○建設投資の減少

建設投資：  
H4：84兆円（ピーク時） → H22：41兆円  
（S52の水準）

公共事業費（国費）：  
H21：9.4兆円（うち当初7.1兆円）  
→ H22：当初5.8兆円（▲38%）

○建設業の倒産件数は高止まり

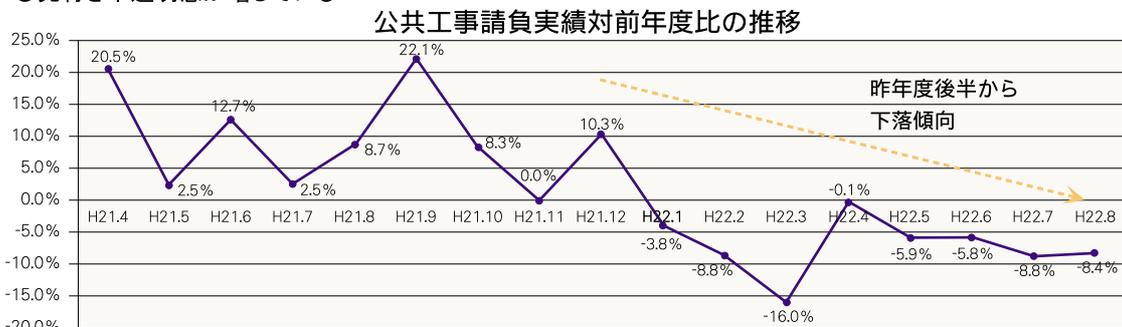


○業種別で最も高い倒産件数

H21年度	倒産件数	構成比
建設業	3,325	25.8%
製造業	2,009	15.6%
卸売業	1,904	14.8%
小売業	2,125	16.5%
運輸・通信業	525	4.1%
サービス業	2,345	18.2%
不動産業	438	3.4%
その他	195	1.5%
合計	12,866	-

### 建設業の先行き不透明感

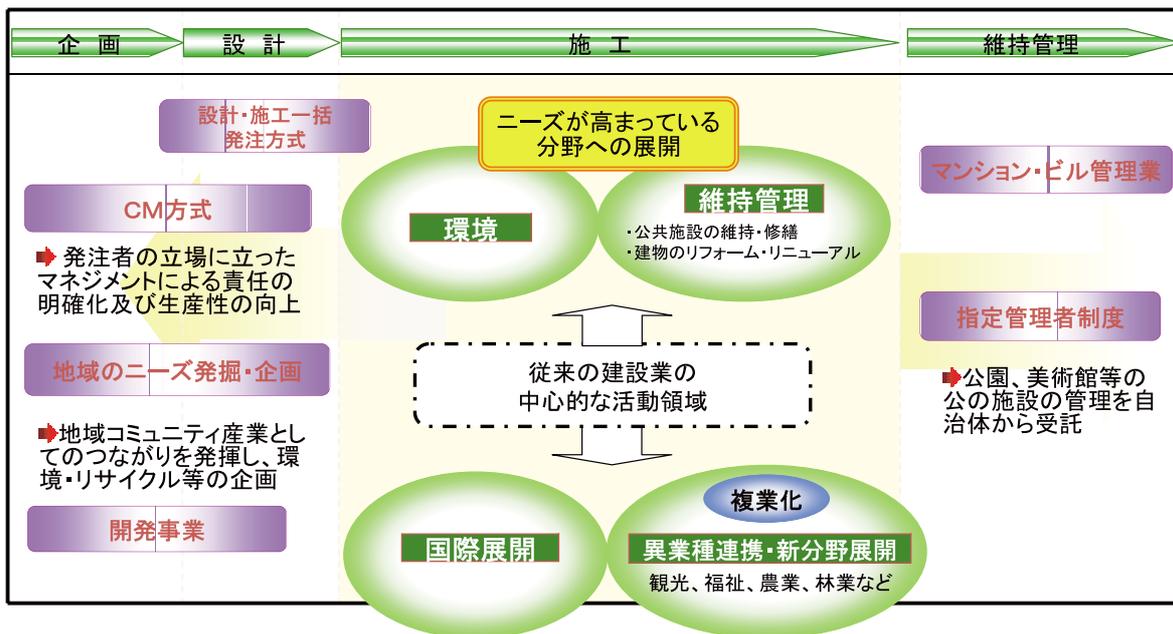
○先行き不透明感が増している



【出典】北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)の業務統計資料

## 建設産業に期待される展開

- 環境等の今後成長が見込まれる分野への活動領域の拡大(得意分野の強化)
- 異業種連携・新分野展開による複業化・総合産業化

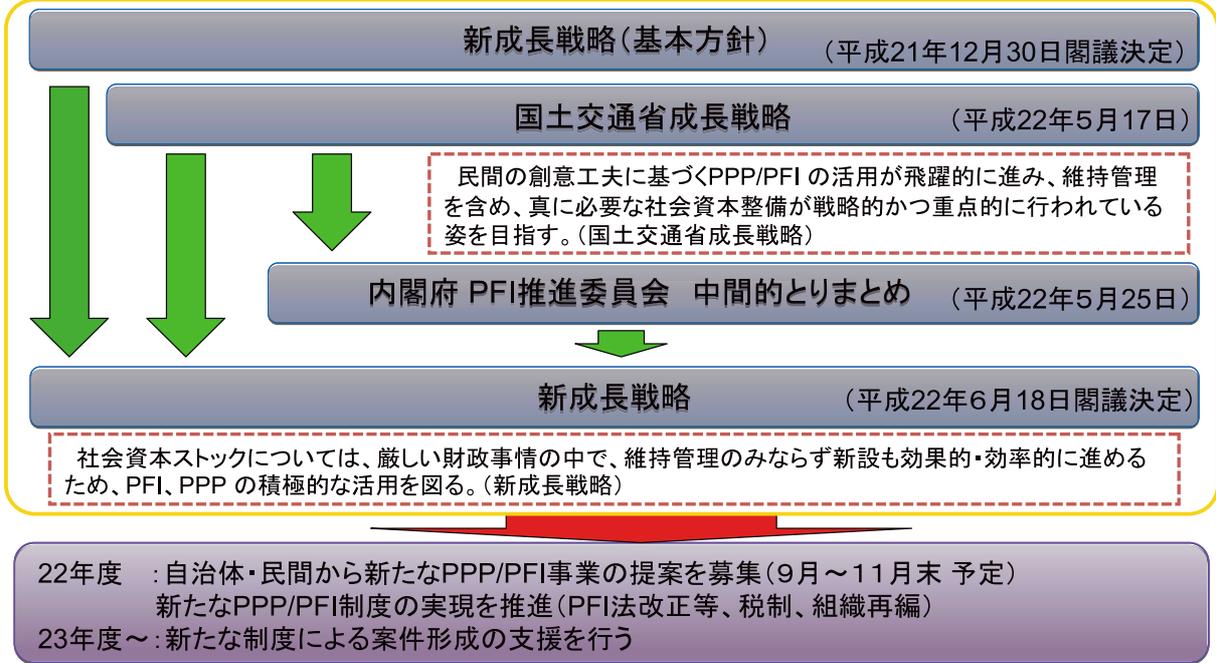


● 経営研究技術研修会報告 ●

## PPP/PFIの推進

厳しい財政状況の中で民間資金の活用を拡大し、真に必要な社会資本の整備及び維持管理を着実にを行うとともに、経済成長や雇用創出等に資するため、コンセッション等の新たなPPP/PFI方式の導入、インフラファンドの形成促進等を推進する。

### ■政府・国土交通省等の取組み



## ● 経営研究技術研修会報告 ●

～新たなPPPインフラ整備～  
研修会を終えて

経営研究委員会

委員長 平井 貴司

10月25日（月）ラピタにおいて国土交通省政務三役政策審議室政策官 小笠原憲一氏をお招きし、(社)島根県建設業協会青年部会との共催事業で研修会を開催したところ、県下の青年部会、行政、金融機関合わせて、総勢約140名の方々が参加され盛大な催しとなりました。

8月に中国地方整備局（広島県）での「新たなPPP/PFI事業」提案募集説明会から始まったこの事業は、折しもここ島根県でも公共工事が激減し、我々委員会として何か会員の皆さんに発信出来ることはないかと考えていた矢先のことでもまさに好機到来でした。

講演では今後少子高齢化人口減少等を背景に、税収の大きな伸びが見込めず、今までのようなインフラ整備が益々出来なくなる。しかし、必要な社会資本整備や、既存施設の維持管理を確実にかつ効率的に進めていかねばならない。豊かな国民生活を実現するためにPPP、PFIの積極的な活用は絶対に必要だと話されました。PPPは例えば企画段階から民間事業者が参加するなど、より幅広い範囲を民間に任せる手法で、PPPを使ったインフラ整備が少しずつ広がっていると話されました。

又、制度改正、ファイナンスなどを含めた課題、他県で行われた事例など写真を使って分かりやすく話して頂きました。日本は今後10年で約10兆円以上のPPPによる事業規模を目指すなど積極的な民間資金の活用を打ち出しているとも言われました。

今後の島根県を考えた時に少子高齢化はもちろん、若者の人口流失、山村部などの限界集落化そして建物や橋、トンネルなどの老朽化など数えきれない問題が目の前に山積しています。例えばPPPでこんな町づくりはできないでしょうか？医療設備のあるお年寄りの為のマンションを作る。介護施設もあるし元気な人も入居でき、体調を壊したらすぐに最新鋭の診療をしてもらえ、菜園もあり好きな野菜なども作れる。その周辺にはスーパーはもちろん、保育園を作りお年寄りと子供の交流の場とする。若者の雇用もできる、もちろん建物は全面バリアフリー化、歩道などの段差もない安心・安全なスペースができれば……。いろいろ問題はありますが、実現できたらいいと思います。

小笠原氏の講演を聞いて未だ混迷が続く日本経済ですが間違いなく新しいインフラ整備の仕組みができ、民間資金を有効活用し官民一体となって企画運営建設、維持管理を行う時代がもうそこまで来ていると思いました。我々青年部会としても、行政と連携を取り合いPPPを更により深く勉強し、実践できたらと考えています。

最後になりましたが、参加して頂いた行政、金融機関の方々をはじめ、会員の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

## ● 親睦事業結果報告 ●

## ～第3回親善野球交流試合～



(株)板倉重機 持田 充

日時 平成22年8月18日(水)  
場所 出雲ドーム

結果

Team	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Total
出雲県土整備事務所	2	0	0	0	0	1	1			4
青年部	1	0	4	2	4	4	X			15

今年で3回目となる、出雲支部青年部会 会員交流委員会主催による「親善野球交流試合」が8月18日に出雲ドームにて行われました。

青年部会チームの過去の成績は、第1回の原商戦を9対2、第2回の出雲県土整備事務所戦を6対5でいずれも勝利し、私も第1回から選手として参加しています。

今回の対戦相手は、昨年熱戦を繰り広げた「出雲県土整備事務所チーム」です。試合前から前回のように僅差での緊迫した試合展開が予想され、山口部会長監督のもと、しっかりミーティングをして試合に挑みました。

球審の集合の合図で両チームが整列し、山口部会長と佐藤技術専門監との握手で互いの健闘を祈って、先攻出雲県土、後攻青年部会でいざプレイボールです。

青年部会チームの先発投手は原監事です。しかし1回表、出雲県土打線に捉まり2点を先取され、更に2アウト満塁のピンチ。夕方とは言え暑さに負けたのか、原監事のスタミナが見る見るうちに奪われてしまい、原監事自ら投手交代を宣言。このピンチの場面で急遽リリーフしたのは中筋組の森脇さん。このピンチでも1人の打者をしっかりと打ち取り、出雲県土チームの得点を2点で抑えます。その裏、青年部会チームも1点を還し、1回を終えて1対2とやはり今回も好ゲームの予感。

次に試合が動いたのは3回裏、青年部会チームの攻撃。花田監事の2塁打等で一気に4点を奪い、5対2と逆転に成功。その後も勢いにのり毎回得点の15点を奪い、投げの方も1回2アウトから好リリーフした森脇さんが5回までを無失点に抑えるナイスピッチング。また、最終回までの残り2回を米江組の米江さんがリリーフ。出雲県土チームも6回に1点、最終回に1点と粘りを見せましたが、15対4で青年部会チームが勝利しました。

暑かったですが、皆さんケガもなく、時には笑い声も聞こえ、両チーム共に楽しみながら本当にいい汗をかいて、今回の交流試合を終了しました。

最後になりましたが、ご協力いただいた出雲県土整備事務所の皆様、選手、応援、準備でご参加の方々ご苦勞様でした。



# ～親善野球交流試合をして～



出雲県土整備事務所 農道・防災グループ

主任 堀田 陽仁

昨年度のある日、当時の佐野所長から出雲へ赴任したばかりの私に、声がかかりました。「建設業協会青年部会から試合の挑戦を受けた。県土木部野球大会優勝に向けてやろうじゃないか。」

思えば約10年前、当時の土木事務所は自分を含め、年齢層も若く、職員数も多い事務所でした。スポーツも盛んで、もちろん野球部も存在し、定期的に各建設会社野球部と試合を行っていました。



しかし、近年は事務所職員の減少、建設会社関係野球部の減少もあったためか練習試合もしておらず、

私たち職員は建設業者の方と交流する場が無くなっている状況です。是非いい機会だと考え、協会からの試合申し込みを快諾しました。そして昨年度、第2回親善野球交流試合が行われました。（詳細は出雲支部青年部会平成21年度親睦事業結果報告参照）

普段仕事以外で事務所内のコミュニケーション場が少ない中、本番前の練習などにより、年度早々より職種、各部を超えてコミュニケーションが図られ、より仕事がしやすい環境になったことは間違いありません。また、親善試合では惜敗しましたがこの悔しさをバネにこの年、県土木部の野球大会において見事優勝することができました。この親善試合がなければ成し遂げなかった結果だと思っています。

この経過を機に今年度第3回親善野球大会も対戦相手として開催していただきました。前年の県土木部野球大会の好成績があったので、今年こそは勝利を納めようと意気込んで戦いましたが結果は私たち県土整備事務所チームの大敗でした…（詳細は出雲支部青年部会第3回親善交流試合参照）しかし、2年続けての交流試合だったため前回よりも交流親善が図られたと感じました。

公共事業を担当する私たちに今必要なものは何か？10年前に勤務していた頃の事務所は、スポーツ、レクリエーションが盛んに行われ、職員間はもちろん、建設業界の方ともスポーツを通して交流を深め、その結果現場では、意思の疎通が図られ、現場の一体感があったような気がします。

住民から信頼され喜ばれる公共事業により地域に貢献することが私たちの使命です。このような行事を通して、人と人とのコミュニケーションが図られ関係者が目標を共有し、一体感を持つことが必要ではないかと私は考えています。

今後も建設業協会青年部会の皆さんと親善を図り、お互いの使命感を持ってより高いレベルの公共工事を目指していきたいと思っております。



● 地域貢献事業報告 ●

# ふるさとまるごとクリーンアップ作戦 ～2010海岸清掃～



(株)もりやま 森山竜人

去る平成22年7月28日、大社町湊原海岸にて浜辺の清掃作業『ふるさとまるごとクリーンアップ作戦』を開催いたしました。

例年だとふるさとの主要幹線路である国道の歩道清掃が実施されていますが、昨年は、普段海岸清掃のなされない堀川河口南側の一区間の清掃をしました。

私は担当委員として、事前の打ち合わせから参加しました。実際下見に行き、現地を最初に眺めたときはそのごみ、流木など漂流物の多さと範囲の広さに委員一同とても驚き、これは大変なことになったと内心不安が募りました。

そして当日、山口部会長の挨拶の後、がんばろうコールで志気を高め清掃作業に移りました。昨年はとくに猛暑で、熱中症等作業が安全に行われるか心配されましたが、幸い海からの潮風が心地よく、いつもの暑さを感じず作業できました。

作業は大型土納袋を持ち歩き、その中に分別しながら、ごみを投げ込んでいき、大きな流木などは我々の機動力を生かし、重機を使いダンプトラックに積み込んでいきました。



場 所：湊原海岸 堀川から神戸川河口  
 人 数：会員40名  
           出雲県土整備事務所20名  
           出雲市役所5名、協力会社3名  
 収集車：4tダンプ4台  
           2tダンプ2台  
 ゴミの量：50t



## ● 地域貢献事業報告 ●

出雲県土整備事務所や出雲市役所の皆様も、積極的にご参加していただき、総勢70名が一斉に作業したので思っていたよりも順調に進み、最後は浜辺に埋まっていた大きな漁網をみんなで掛け声とともに引っ張りあげ、歓声があがって作業を終えました。

作業が終わりその日に集めたごみは半端でなく予想以上の大量でした。

私も以前に、何度か稲佐の浜の海岸清掃に参加したことがあり、そういうボランティア活動がされていることや業務委託で清掃されていることは知っていましたが、今回のように手付かずの区間もまだまだあることを知りました。今回の規模を地元の方やボランティアでやろうと思えばかなり大変な労力だと感じました。

近年、道路のほうは通行者のモラルの向上や再資源化により、ごみが減ってきたと感じる一方、海岸は異常気象によるゲリラ豪雨等の自然災害の発生により、河川から海に流れてくる漂流物は増えてきているのではと感じます。少し大袈裟ですが、この活動は、現在直面する地球温暖化という問題にも少なからず触れることができたのではないかと思います。

今回の取り組みは、我々のふるさとの未来について考える大きな一歩ではなかったかと思っています。

この活動をとおして、次世代のためきれいな海岸を守ると共に、建設業界のイメージアップと我々の生活になくってはならない存在が建設業であることをアピールしていけたらと願っています。

最後に、海岸清掃に参加された出雲県土整備事務所、出雲市役所の皆様、青年部会の皆様大変にお疲れ様でした。ありがとうございました。

ふ〜、お疲れ！  
ゴミがたまりましたわ〜



清掃前



清掃後

# 僕の趣味

出雲土建(株) 小村 伸一

皆さんはどんな趣味を持っておられますか？僕はどちらかというと浅く広く、いろいろな事をやってきました。高校を卒業して専門学校の際はバイクにはまり、免許をとらないうちからバイクを購入して眺めてました。バイクは当時好きだった車種が2つあり、カワサキのGPZ900R忍者とスズキの1100刀でしたが、結局カワサキGPZ400Fを知り合いから購入しました。同級生が大阪のバイクショップに就職していたので在学中の2年間はショップのツーリングに参加したり、サーキット走行会を見に行ったりと楽しいバイクライフを送っていました。



楽しいことの反面、バイクで怖い思いをしたこともありました。あれは一人で広島の友達の所に遊びに行った帰り、阪神高速を走行中に睡魔に襲われ一瞬寝てた（^o^）気がつけば目前には壁が！間一髪激突は逃れたもののバイクのカウルは擦れて傷ついていました。（疲れた時は休憩しましょうね…）他にもヤバイ瞬間はありましたが、この時が一番ヒヤッとしましたね。

その後広島に就職してからはバイクに乗る機会も減り、その代わり職場仲間とスキー・ゴルフ・野球…パチンコをするようになりました。春から秋までは野球にゴルフ、冬の期間は毎週末あちこちのスキー場に出掛けて…仲間同士で競って検定を受けたりもしました。（結局2級取得まででしたが）



この頃もヤバイ事がありまして、大山国際スキー場に行ったときの事、数人でチャンピオンコースにチャレンジ！皆が恐る恐る滑降して行くのを見ながら、粋がってスタート…コブ斜面を何とかクリアするも高速エリアに入り完全にスピードオーバー、自分でも転ばないのが不思議なくらいの滑りをしていましたが…結果は案の定、限界を超えたスピードを制御出来ずコブに乗り上げ大ジャンプ…20~30m吹っ飛んでしまいました。幸い体は打ち身程度で他人に怪我させることもなく自爆という形で落ち着きました。しかしその後悲劇発覚、休憩所に行こうとしたその時、スキー板に異変が…何と着地の衝撃に耐えられず板はセンター付近で折れていました。板に貼っていたフィルムと金具でかろうじて繋がっていたのでした。ショックで暫し哑然…スポーツ店勤務の先輩に勧められて1ヶ月前に買ったばかり（しかも9万円）のスキー板だったのに…結局そのシーズンは板を買い替えられるはずもなく前に使っていた古い板になりました。ト・ホ・ホ・・・

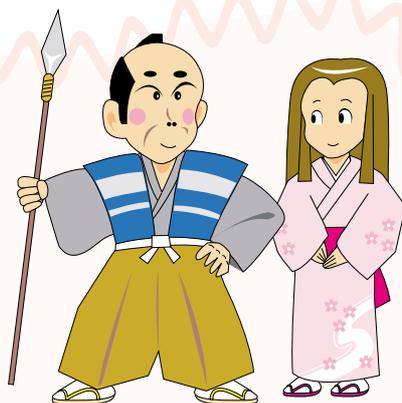


今となっては懐かしい（怖い）思い出の一場面ですね。

出雲に帰ってきてからは、一人で楽しめる趣味と家族で楽しめる趣味を新たに探しているところです。まずは今年の冬に遠ざかっているスキー（そりになるかな）orスケートに家族で行きたいなと思っています。

# 「<sup>そう こう</sup>糟糠の妻」

青年部会事務局 手 銭 裕 子



昨年4月より青年部会事務局を担当することになりました。年は青年部ではありませんが、気持は若いのでどうぞよろしくお願ひします。

私の家族は主人と長女(大阪)、次女(同居)、長男(東広島)の5人です。お年頃のお姉さんたちは一向にその気はないらしく青春を謳歌、長男は一人暮らしの大学生活をエンジョイしているノーマンぶり、おかげで親は青息、吐息です。(ハー、ア！)

さて、標題の糟とは酒かす、糠とは米ヌカのことだそうです。要するに苦勞を共にしてきた“古女房”といったところでしょうか。

戦国時代、豊臣秀吉は正室のおね(北政所)のことを晩年「糟糠の妻」と呼んだそうです。歴史研究家の三池純正氏によれば『「糟糠の妻」とは、若き時分から連れ添って、苦勞を共にしてきた妻という意味である。それは、秀吉のおねに対する最大の感謝の表現であった。事実、もし秀吉がおねと出会わなかったとしたら、彼の天下取りはなかったかもしれない。』だそうです。おねは献身的に夫を支え、夫の立身出世を助けたようです。

今年からNHKの大河ドラマで“江”をやっていますが、ドラマの中では秀吉を岸谷五朗、おねは大竹しのぶが演じています。秀吉は主君の織田信長にいくら叱られようともひょうひょうとした様子で凡人ならぬ非凡さをもうかがわせます。そしておねの賢妻ぶりもさすが、天下人の夫人だと思ふのです。秀吉が関白に任官したことに伴い、北の政所として朝廷との交渉や人質として集められた諸大名の妻子を監督するなどの役割を担いました。又、二人の間に子供がいなかったので親類縁者を養子や家臣として養育したのもおねの役目でした。おねのもとで育った少年たちは、日本を代表する武将へと成長し、秀吉を助けました。中でも加藤清正、福島正則が有名です。

そのように人格者であったおねですが、時には秀吉と諸大名の前で尾張訛りの喧嘩をしたとか。夫婦には喧嘩はつきもの、我が家もよく言い合いをします。でもそのうち収まります。結婚して28年、今では空気のようなもの…空気は絶対になくってはならない。けど普段は気にならない、かな？(微妙～)

先日主人が仕事から帰ってきて私の隣に座るや否や「おまえ、何かあったかや？」と言うのです。実はその日、よその家の前で車を方向転換しようとバックしたらやがてのほどにドン！ブロック塀にぶつけてしまい、リアフェンダ損傷、テールランプ破損、私にとっては大損害です。夕方主人が帰る前に夕食の支度をと思いながら重い腰が上がりなかつたそんなときの一言でした。主人いわく「夫婦だけん顔見たら分かーわや。」だそうです。

いずれ子供が出ていけば夫婦二人になるのですからこれから先も仲良くやっついていなくちゃね、ということで「糟糠の妻」ならぬ「おっちょこちょいの妻」のお話でした。

参照 HP高台院、戦国時代を生き抜いた女性たち(歴史研究家 三池純正)

## (社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

## 歴代部会長

初代部会長	山本恭則	【平成9年度】
第2代会長	今岡裕統	【平成10～13年度】
第3代会長	別所幸雄	【平成14・15年度】
第4代会長	広戸修	【平成16・17年度】
第5代会長	久文秀典	【平成18・19年度】
第6代会長	山崎章弘	【平成20・21年度】

## 編集後記

昨年まで別々の委員会でしたが、本年度より総務と広報を総務広報委員会として受け持つこととなり、その委員長を務めさせて頂きました。微力ながら青年部会の運営、または広報活動に係わることができ、楽しく委員会活動が行えたのではないかと思います。

さて平成22年度も残すところわずかとなりましたが、皆様にとってどのような一年だったでしょうか。

振り返ってみると我々建設業界にとって、年々厳しさを増す景気の悪さに加え、去年は連日に渡り30度をはるかに越えた猛暑による熱中症対策、また突然のゲリラ豪雨、そして年末から正月にかけての大寒波による大雪など、苛酷な天候対策に努めた一年でもありました。まさに自然環境に翻弄され、自然と切っても切り離せないのがこの業界です。今後も即時対応できるよう対策を強化しながら無事故を心がけていきたいと思ひます。

作家の吉川英治氏は『くつたまをなす苦徹成珠（あらゆる道は苦徹を踏んで初めて大道へ達することが出来る）』と言われました。決して新年度に好転の兆しは見えてはいませんが、“苦に徹してこそ珠となる”よう前向きにとらえていきたいと思ひます。

最後になりましたが、今回の青雲にご寄稿いただきました皆様、また一年間委員会活動にご理解、ご協力頂きました全ての方々に心より感謝を申し上げます。大変お世話になり、ありがとうございました。

総務広報委員長 御船善弘

**社団法人 島根県建設業協会出雲支部青年部会**

〒693-0028 出雲市塩冶善行町2-2

TEL : 0853-21-1187 FAX : 0853-21-2454

出雲支部ホームページ (<http://www.shimakenkyo.or.jp/izumo/>)  
青年部会の活動についてもご案内しています。是非ご覧下さい。